



祈 祈りの日 八月六日

住職 横山 正賢

申すまでもなく昭和二十年八月六日は、人類史上始めて使用された原子爆弾が広島の上空で炸裂した日である。この頃禅昌寺は現在の中区薬研堀にあり、爆心地より一キロメートル以内には位置していた。約六百坪の境内には現在の本堂と同じ規模の本堂と庫裡の外、鐘楼堂・稲荷堂があり、柿木や柳の木が茂った街中にありながら荘厳な雰囲気をかもし、子供達の恰好の遊び場となっていたようである。

広島城は天正十五年（一五八七年）頃、城地の選定に着手し天正十九年（一五九一年）四月毛利輝元によって築城され、禅昌寺の創建された元和元年（一六二五年）城主福島正則当時の薬研堀は医者や学者といった文化人の多く住む町であったようである。明治時代に入り広島は次第に日本一の軍都と化し、造船・兵器工場など軍需産業が盛んとなり人口が急増し、それが人類史上最初の原子爆弾投下の標的となったといわれる。薬研堀一帯も歓楽街と変容していった。

当時禅昌寺の境内には商売繁盛を祈願する豊川稲荷社が祀られていて縁日には賑わい、芸者さん達も詣でる下町情緒豊かな風情をかもし寺であったそつだ。

孟蘭盆施餓鬼法要は毎年八月五日夕刻、歓楽街の賑わいが始まるころ営まれていたようである。妻仁子は二歳の時、昭和十七年当山の二十二代住職となった父と母と共にこの寺に入り五才になったばかりだった。昭和二十年八月六日は、前日お寺にとつて年間の一大行事である、施餓鬼法要をすませ一息ついた朝。一人娘仁子は、当時お寺の本堂で分散授業をしていた小学校の授業の始まりを待つ児童の様子を、回廊に頬杖をついて眺めていた。両親はたまたまお墓参りに来た檀家の人と、庫裡の縁側に腰掛けて談笑する長閑な朝であった。

午前八時十五分原子爆弾が炸裂した。妻はこの時のことはほとんど覚えていないという。両親は幸いに縁先において倒壊した庫裡の軒下に埋まったものの、大した傷もなく這い出して、倒壊した本堂と庫裡の間に無傷で立っていた妻を抱えて比治山方面から段原町を通って府中町の長福寺さんへ逃れた。数日後両親は妻を長福寺に置いたまま、火災の治まった焼け跡へ作業に通ったそつだ。その間に放射能に汚染され、母は一ヶ月後の九月十日に原爆症で亡くなり、父も昭和二十九年、妻中学二年生の四月六日始業式の日、原爆症による癌で亡くなった。被爆の日、本堂に集まっていた三十数名の小学生の内、唯一人倒壊した本堂の瓦礫

の下から足をのぞかせていた少女は、住職に引き出されて助かり、今も元気でおられる。他の児童たちは火の手が迫る中、助けようもなく多くが焼死したそつである。

今年人類最初の大量殺戮爆弾が炸裂して六十年、広島市民は八月六日を世界平和を祈る日として世界に訴えてきたが、世界の怨念の対立は深まるばかりである。国内にあつては犯罪の低年齢化や残酷な犯罪が氾濫している状況はけつして平和国家とはいえない。被爆と終戦の還暦を迎える時、六十年前貧困と憔悴から逞しく歩みを進められた私の親世代の目指した願いや祈りは如何にあつたか考えさせられる。

法句経の一句に

勝つ者 怨みを招かん

他に敗れたる者 くるしみて臥す

されど 勝敗の二つを棄てて

こころ寂靜なる人は

起居ともに さいわいなり

とある。

スポーツやゲームの上での公平な勝負はお互いを鼓舞し互いに活かされるものであるが、自己顕示と利己的な振る舞いは、相手を折伏し抹殺することを考える、故に怨みをかひ、己も抹殺される因となる。

勝ち負けの対立をやめて 他（森羅万象）に活かされていることに目覚めたとき、自らの生き方が見えてくることを示唆されている。

八月六日は仏教徒としてどのような平和を祈り実践するかが問われる日であると思う。

第13話

限りない犠牲のうえに
あなたは

生かされている

愛知専門尼僧堂頭 青山 俊董

小諸なる古城のほとり
雲白く 遊子かなしむ

透明な秋の陽射しを波頭に踊らせながらゆつたりと流れる千曲川の流れを見つめておりましたら『千曲川旅情の歌』を作詩した島崎藤村のこと、その詩碑のある小諸の懐古園のこと、そこで草笛を吹いておられた横山祖道老師のことなどを懐かしく思い出しました。祖道老師は一生涯お寺は持たず、農家の納屋に起き伏し、昼間は懐古園へゆき、笹藪の蔭で坐禅をしたり懐古園を訪れる人に草笛を吹いて聞かせるという生活を送っておられました。もうあれは何年前のことでしょうか。この老師と私がNHKの『心の時代』で『草笛説法』というテーマのもとに対談させていたかどうかになり、懐古園をお訪ねした時のことでした。老師は天下第一の珍客を迎えたかのようにいそいそと笹藪の蔭の芝生の上にナイロンの風呂敷を広げてマゴトのような座敷を作り「さあ此方へ」と手招

きしてくれました。それから小さな欠けた七厘を持ち出し、拾い集めてあつた枯れ枝を折つてくべ、火をつけられました。枯れ枝はしばしひなびた匂いととにも、煙をたゆたわしておりましたが、やがてパチパチと燃え始めました。ガスや電気に頼つて焚き火を忘れた現代人にとつて枯れ柴の燃える匂いや音は何とも嬉しく懐かしく私は思わず七厘のそばへ駆け寄り、枝を折つてはくべ、折つてはくべたことでした。老師は小さな鍋に水を汲んで来られ、それを燠火の上にかかけられてから静かにお話を始められました。

『典座教訓』
わが人生をどう料理するか？

「みんな大空という一つ屋根をいただき大地という一つの床の上に住む同じ家の住人じゃありませんか。それなのに一生懸命境を造つたり、垣根

で囲つたりして吾のものと彼のものと区別をつけるから取つただの、取られただの、損をしたの得をしたのというつまらない思いが湧いてくるのです。宇宙いっぱいわが家、あの鳥もこの猫もみんなわが家の家族、一つ命に生かされている兄弟姉妹です。どの道端に咲いているタンポポもわが境内に咲く花。浅間山も富士山も、わが家の庭の築山ですよ」やがて鍋の湯が沸くと、頭陀袋の中から茶碗を出されました。汽車の弁当のうどんのドンブリです。老師はニコニコしながら「これは千利休さんの使われた茶碗」枯れ枝二本を同じ長さに揃えて折り、「これは大閻秀吉が使つた箸」と言いながらナイロンの袋の中から羊羹をはさみ、私の掌にのせてくださいました。心を込めてお点てくださいつた一服のお茶を乾き切つた大地に慈雨がしみ通つてゆくような深い喜びとともに味わわせていただきながら思いました。ここに利休や宗旦がめざしつつ達し切れなかつた侘びの茶の究極の姿があると。また、道元禪師は料理するものの心得を通して「わが人生をどう料理するか」を示された『典座教訓』の中で、「材料の良い悪いではない。それにどれほどの真心が込められているかが問題だ」とおっしゃり、何も供養するものがなくてお米のとき汁をお釈迦さまに供養した老婆のことや自分の食卓にのぼつた半切れのマンゴーを切なる思いを込めてお坊さんたちに供養した阿育王さまの話为例としてあげられた後、「多慮は小実に如かず」の言葉でこの項を結んでおられます。

心のこもらない多くのものより、わずかでも真心のこもっている方がはるかに素晴らしい、というのです。真心いっぱい料理はたとえ品数は少なくとも心が豊かに満たされますが、心のこもらない料理をいかに品数多く並べても、満腹とは裏

腹に心は空しいものであり、大切なのは真心だといふのです。

食材や道具を自分の眼の玉のように大切に

一服のお茶をいただいた後、祖道老師は草笛を吹いて聞かせて下さいました。信州の澄んだ秋の空に草笛の音色は静かな余韻を残して消えてゆきました。天地いっばいをわが故郷とし、いずこもわが家とし、その中に住む一切のもの、人間ばかりじゃない、動物も草木もこの地上に住むすべてを一つ命に生かされている兄弟として親しみの眼を持つて見つめ、呼びかけ、扱っておられる祖道老師。その姿をまのあたりに見て、私は道元禪師が「共に仏子たり」と呼びかけておられる言葉を思いました。地上にある一切のものは地球という名のひとつの船に乗り合わせた一族。いずれもが天地いっばいの仏の命をいただいた仏子であり、兄弟仲間たちであってそこに尊卑の序列はない。人も仏子なら犬も猫も仏子、大根、人参も仏子。みんな平等の命をいただいた仏子たち。だから菜っ葉一枚、水一滴、お米一粒をわが命と思つて大切にせよと説かれる。鍋の底をガチャンとぶついたら私の頭もガチャンとぶつつけたように受けとめ、鍋の悲鳴が聞こえなきや駄目だとおっしゃるのです。

「飯を蒸す鍋頭を自頭となし、米を淘ぎ水はこれ身命なりと知る」と示され、さらに材料や道具を「護惜すること眼睛の如くせよ」

自分の眼の玉を大事にするように大切に扱えとお説きになっておられます。

「命いただきます！」と感謝の合掌を

昔から日本の家庭では、お米一粒、水一滴を大切にすることを厳しく躰けて参りました。それが今は飽食の時代となり、ご飯粒をいっばいつけたまま洗い流し、お惣菜も残したまま捨てることに何のためらいもない。まして罪悪感などまったくなくなってしまうことは、残念でなりません。「人間は生きるために、にわとりも殺さなくちゃいけないし、豚も殺さなければいけない。生きるってことは、ずい分迷惑をかけることなんだなあ。自分で自分のことを全部できたら、人は一人ぼっちになってしまう。他人に、迷惑をかけるということは、その人となりがりを持つことなんだ。他人の世話をするってことは、その人に愛をもつことなんだ。生きるってことは、たくさん生命とつながりをもつことなんだ」これはある農地実験所を見学した小学6年生の山崎まどかちゃんの作文の一節（無著成恭著『ヘソの詩』）です。

今日一日生かさせていただくために、どれだけの命をいただいていることでしょうか。数えきれないほどのお米の命、味噌や豆腐や納豆の原料となつた大豆の命、豚や牛や魚や野菜たちの命、限らない命の犠牲の上に私のいまひとときの命があらしめられていることを思う時、生きる姿勢を正さずにはおれなくなります。

私のために命を捧げてくれたものたちに、心から「命いただきます」の感謝の合掌を捧げないではおれなくなります。それがお食事の時の「いただきます」の言葉の心ではないでしょうか。

※ 本文は、青山俊重尼老師著

「悲しみはあした花咲く」光文社より抜粋したものです。

私

仏様は私の中に入って来て下さっておられますと聞いてきました。

私のこのドロドロのぼん悩の中に入って下さっているんですね！

私のぼん悩の毒矢にあたつてどんなに痛い目をされているでしょう！

私のぼん悩のドロの臭いにどんなにやりきれない思いをされるでしょう！

私はそれでもつきることなく、あきることなく毎日怒り腹立ちの

ぼん悩の火を燃やし続けます。

どんなにか熱い思いをされるでしょう！私はどれだけ仏様を悩ませ苦しめれば

気がすむのかしら！

おそらく私が晴れてお浄土へ帰るまで、私は平気でぼん悩の火を燃やし

生き続けるでしょう！

仏様はそれまで気が抜けない毎日なのですネ！私の為に！

思えば無始以来、今日まで仏様に御心配、御足労のおかけどうしたんですネ！

申し訳ありませんでした。御足労おかけしました。

ありがとうございます。

◆道心・趣味の会◆

短歌

● 亡き夫を 納めし墓石にそそぐ水
真夏日の下たちまちに渴く

● まろき枇杷 口にふくみて種とはす
縁に座する子の遊ぶひとこま

東区 矢野 淑子

俳句

● 口ばかり五つ並んで燕の子
● 子の問いに応えつゞけり新樹光
● 蝸の鳴き交しつゞ 独りなく
● 歩き行けど歩き行けども 涸れし川

廿日市市 伊藤 順二郎

自由律俳句

● 劣化ウランの弾がころがる
イラクを蝕む人を蝕む
闇がこわれて ほつたる

廿日市市 佐藤 歎次

◆行事報告◆(五月〜七月)

- 五月二十一日(土)〜二十二日(日) 四国八十八ヶ所巡拝の旅 六十番札所〜七十三番札所 三十四名が参加しました。
- 七月十八日(月) 佐伯町虫所山溪流散策とヤマメ料理を楽しむ会

薄曇りのこの季節にしては凌ぎよい日に恵まれて、万古溪の滝壺のそばはひんやりとする爽やかな一時でした。ヤマメづくしの昼食は楽しく和やかな交歓会となりました。



26名が参加した佐伯町散策とヤマメ料理を楽しむ会(平成17年7月18日)

- 七月三十日 土曜日 九時半集合 お盆前の諸堂掃除

◆行事案内◆(八月〜十月)

■毎週定例行事

- 暁天坐禅会 月曜日〜金曜日 毎朝五時十分より五十分まで (十月から午前六時〜四十分まで)
- 水曜坐禅会 午後七時より坐禅・茶話会 終了 八時半
- 婦人坐禅会 毎週金曜日 午後一時より坐禅・茶話会 終了 三時(第一金曜日のみ坐禅の後、写経、茶話会)

※ 八月中の坐禅会はお休みです。

■毎月定例行事

- 上田宗箇流茶道稽古日 毎月一回 第二又は第四金曜日を予定 午後二時から ※お抹茶と和菓子を気軽に楽しむつもりでご参加下さい。
- 御詠歌の会 第二金曜日午前十時より自主練習 第四金曜日午前九時より講師を招いて練習 昼まで

◎ 茶道の稽古及び御詠歌の稽古は講師の都合により変更する場合があります。初めて参加される方は、お寺に電話にてご確認下さい。

■恒例行事

- 孟蘭盆会法要 八月六日(土) 午前十時半より 法要・法話・会食 午後十二時半解散

※ 初盆の方は出来るだけご参加下さい。

四国八十八ヶ所

ご巡拝の旅(二泊二日)

- 日時 十一月五日(土)〜六日(日)
- 行き先 第七十四番札所 甲山寺〜第八十八番札所 大窪寺
- 集合場所時間 十一月五日 午前六時 五十分 広島駅新幹線口に集合、七時 出発。
- 帰着は翌日 午後八時半を予定。
- 参加費 一人二万五千円程度
- ※ 旅行の参加申込み・お問い合わせは 電話 〇八二二九〇六一八 申込み期限 十月五日

● 青山俊重尼老師講演会

- 九月三十日(金)
- 午前の部 十時半より十二時半
- 午後の部 一時半より三時

心に染みる秋
 フルーツとアイリッシュ・コンサート
 禅昌寺本堂で 至福のひとときを...
 第5回 ジョイントコンサート

フルート：大代啓二
アイリッシュハープ：永山友美子

10月22日(土)

入場料 2,000円(全席自由)
 主催：フルートコンコード広島を支援する会 共催：禅昌寺道心会 NPO法人 松笠山の会
 開場：18時00分 開演：18時30分

原稿募集

皆様の随筆、旅行記、体験談、趣味の短歌俳句など何でも結構です。お寄せ下さい。次号原稿締切は、九月末日までにお願ひします。